

八幡市

史跡めぐり

男山四十八坊について (おとこやましじゅうはちぼう)

本殿周りと東の山腹にかけて、「男山四十八坊」とも称された坊が、所狭しと並んでいました。「坊」とは小さなお寺で、社僧が暮らしました。江戸時代に同時に存在した坊は四十八より少ないですが、室町時代が最も多く、幕末にその数は三十四坊まで減少しました。江戸時代末期まで残っていた建物も、神仏分離政策によりその姿はほぼ全て失われることとなり、今では石清水八幡宮参道の石垣にその痕跡をとどめています。

◆交通のご案内

●京都から



●大阪から



●奈良から



◆お問い合わせ

八幡市商工観光課

〒614-8501
京都府八幡市八幡園内75番地
TEL.(075) 983-1111(代)

八幡市観光協会

〒614-8005
京都府八幡市八幡高坊8番地の7
(京阪電車八幡市駅前)
TEL.(075) 981-1141

松花堂（しょうかどう）



草庵茶室「松花堂」

松花堂昭乗は江戸時代初期（寛永年間）に活躍した石清水八幡宮の社僧で、茶の湯を通して当時一流と呼ばれる文化人と交流を深めました。書においては「寛永の三筆」のひとりに数えられ、「松花堂流」または「瀧本流」は江戸時代を通して書のお手本がありました。また、和歌や画にも秀で、多くの名作を今に遺します。草庵茶室「松花堂」は、昭乗が隠居生活をおくるために、僧坊「泉坊」内に建てた茅葺きの2畳の建物で、昭乗はこれを「松花堂」と名付け、自らも「松花堂昭乗」と名乗ります。建物は、明治のはじめに男山の中腹から「泉坊書院」とともに現在の松花堂庭園に移築されました。現在、草庵茶室「松花堂」は京都府の指定文化財に、「泉坊書院」は同じく登録文化財で、「松花堂」を含むその周辺は国の史跡に指定されています。



松花堂庭園・美術館



女郎花塚

八角堂（はっかくどう）

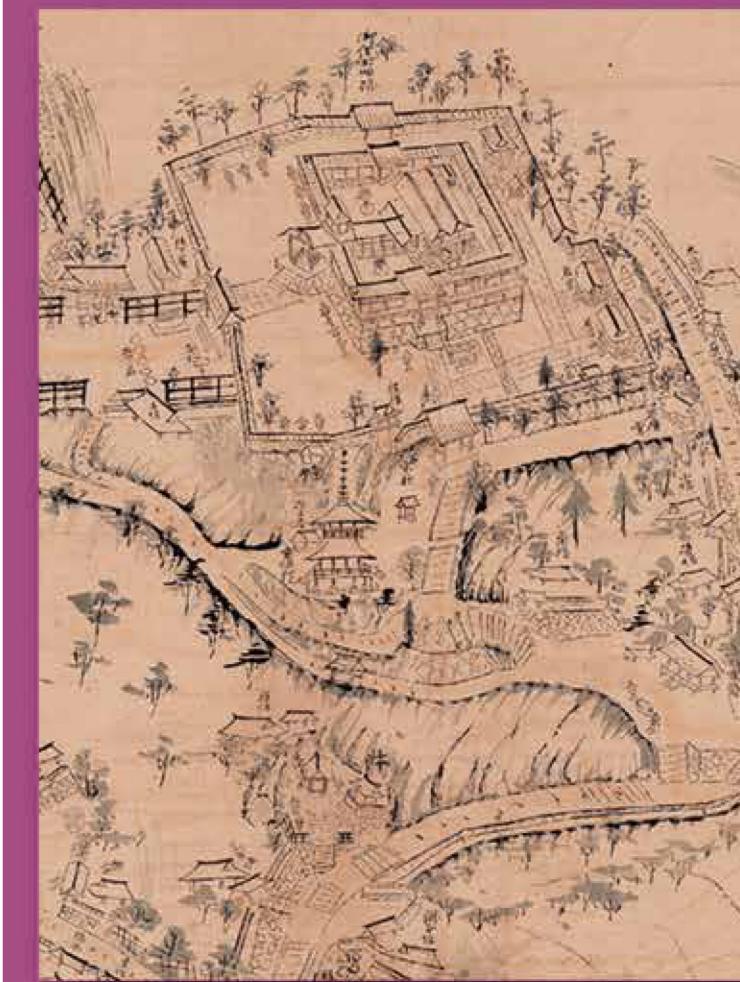
正方形の四隅を欠きとった、隅切形八角堂ともいえる特異ななかたちをもつ仏堂。金色に輝く丈六の阿弥陀如来坐像（正法寺蔵）を本尊としています。もとは石清水八幡宮の本殿南西（現在の三女神社北側）にありましたが、神仏分離政策により正法寺が引き取ることとなり、西車塚古墳の上に移築され現在に至ります。唯一現存する石清水の主要な佛教施設です。



現在の八角堂跡地（右手奥）

観光マップ

八幡市駅～松花堂及び八角堂



国史跡「石清水八幡宮境内」

